



24 参河後風土記 卷十五、卷二十三 *写 (部分)

成立年不詳 (近世初期)
 明和4年(1767年)4月・7月萩原重堅写

徳川氏が祖と称した清和源氏から徳川家康將軍就任までの700余年間を年代順に記述した書物です。著者は不明です。家康の関東入国に伴い、9月10日に関東各地に配置された大名が列記されています。上野国には、徳川四天王のうち井伊直政が箕輪に、榊原康政が館林に入城したほか、厩橋の平岩親吉など三河時代以来の重臣が多数配置されたことがわかります。

家康公于爰御在城ナサレハカノ政更ヲ執行セ玉フ頃目迄北条氏政カ領内ニテ件行人松田尾張守カ貪欲無道成敗ニ民疲レ人苦ニテ年々難儀ニ及ヒケルニ 家康公御自以後其役人ヲ是テラレ呂々僉議シテ北条カ支配時善吉ヲ挙用ヒ惡吏改メテ仁政ヲ行ヒ至ハ上中下痛ナク豊饒ニ成シカハ万民コソツテ喜ヒケリ同九月十日ニハ御家人高々恩賞ノ地ヲ被仰出所謂

上及箕輪城十二万石 肥後守直親カ子重名万石代
 井伊兵部少輔直政 平八郎忠高子初名平八郎
 上総小多喜城十万石 本多中務太輔忠勝 七郎右衛門長政三男初名少平太
 上野館林城十万石 榊原式部太輔康政 五郎右衛門忠勝子
 相模小田原城四万五千石 大久保七郎右衛門尉忠世 五郎右衛門忠勝子
 上総矢作四万石 伊賀守元信子 鳥井彦右衛門尉元忠

上野厩橋城三万石 左衛門尉親昌子初名七之介
 平岩主計親吉 下総守兼成子初名親吉
 同乃以藤岡三万石 松平右衛門尉大平康勝 右近大夫貞盛子初名兵部少輔
 下総古河城二万石 榊原信濃守秀政 五郎右衛門忠勝子
 下総碓氷二万石 酒井宮内太輔家次 豊後守信重子初名家次
 上野白井城二万石 本多豊後守廣孝 榊原式部太輔文外記高左衛門廣高
 上総久留理城二万石 大須賀五郎左衛門尉忠政 榊原式部太輔子大外記五郎左衛門廣高
 上野小幡城二万石 奥平美作守信昌 日向守家成子後号長門守
 上総鳴戸城二万石 石川左衛門尉康通 七郎右衛門忠世子後号相模守
 武蔵羽生城二万石 大久保治部太輔忠隣 駿河守家成子
 上野太胡城二万石 牧野右馬允康成 左馬介長政カ父
 上総紀貫城二万石 内藤弥次右衛門尉家長



〔訳文〕
 〔表紙〕
 〔24〕 参河後風土記 卷十五、卷二十三
 (P0201 萩原信之家文書 No.480-1)

〔前略〕
 家康公于爰御在城ナサレハカノ政更ヲ執行セ玉フ頃、日迄北条氏政カ領内ニテ件ノ奸人松田尾張守カ貪欲無道ノ成敗ニ民疲レ人苦ミテ年々難儀ニ及ヒケルニ、家康公御入国以後、其役人ヲ定メラレ、品々僉議シテ北条カ支配時ノ善吉ヲ挙用ヒ、惡吏改メテ仁政ヲ行ヒ至ハ、上中下ノ痛ナク豊饒ニ成シカハ万民コソツテ喜ヒケリ、同九月十日ニハ御家人ノ面々恩賞ノ地ヲ被仰出、所謂

上及箕輪城十二万石 肥後守直親カ子重名万石代
 井伊兵部少輔直政 平八郎忠高子初名平八郎
 上総小多喜城十万石 本多中務太輔忠勝 七郎右衛門長政三男初名少平太
 上野館林城十万石 榊原式部太輔康政 五郎右衛門忠勝子
 相模小田原城四万五千石 大久保七郎右衛門尉忠世 五郎右衛門忠勝子
 上総矢作四万石 伊賀守元信子 鳥井彦右衛門尉元忠

上野厩橋城三万石 左衛門尉親昌子初名七之介
 平岩主計親吉 下総守兼成子初名親吉
 同乃以藤岡三万石 松平右衛門尉大平康勝 右近大夫貞盛子初名兵部少輔
 下総古河城二万石 榊原信濃守秀政 五郎右衛門忠勝子
 下総碓氷二万石 酒井宮内太輔家次 豊後守信重子初名家次
 上野白井城二万石 本多豊後守廣孝 榊原式部太輔文外記高左衛門廣高
 上総久留理城二万石 大須賀五郎左衛門尉忠政 榊原式部太輔子大外記五郎左衛門廣高
 上野小幡城二万石 奥平美作守信昌 日向守家成子後号長門守
 上総鳴戸城二万石 石川左衛門尉康通 七郎右衛門忠世子後号相模守
 武蔵羽生城二万石 大久保治部太輔忠隣 駿河守家成子
 上野太胡城二万石 牧野右馬允康成 左馬介長政カ父
 上総紀貫城二万石 内藤弥次右衛門尉家長